



FASF 事務局長 退任のご挨拶

(前)FASF 代表理事常務 事務局長 みやこまさし
都 正二

財務会計基準機構（FASF）前事務局長の都でございます。

先般、6月27日をもちまして事務局長を退任させていただきました。

平成24年12月に就任以来、4年半ほど務めさせていただきましたが、この間、市場関係者の皆様、FASFの会員の皆様、そして本季刊誌の読者の皆様には、財団の活動に多大なご理解とご支援をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

FASFの目的は、一般に公正妥当と認められる会計基準の調査研究・開発、国際的な会計基準の開発への貢献並びにディスクロージャー及び会計に関する諸制度の調査研究を行い、もって我が国における会計・ディスクロージャーの諸制度の健全な発展と資本市場の健全性の確保に寄与することとされています。

FASFは、2001年の設立以降、この目的に沿って、経済・社会の変化にも対応しつつ、様々な活動を展開してまいりました。

企業会計基準委員会（ASBJ）では、日本基準を高品質で国際的に整合性あるものとするための基準開発や国際的な意見発信を行っておりますが、FASFは、これらのASBJの活動をサポートするとともに、一方では、ASBJに対するガバナンスも強化し、市場関係者から一層の信頼を得るための取組みも行ってまいりました。また、IFRS対応方針協議会の活動等を通じて、IFRSに関連する我が国の市場関係者の意見の集約やIFRSの任意適用の拡大に向けた取組みも行ってまいります。

さらに、FASFでは、IFRS財団に対する運営資金の拠出やIASBに対するスタッフの派遣など国際的な貢献を行ってまいりました。

そうした中で、近年、特に重要な課題となっておりますのが、国際的な会計基準の策定の場において意見発信できる人材や、その策定に関与できる人材の育成です。これは、日本の多くの分野に共通する課題となっており、政府の「日本再興戦略2016」にも明記されているところです。

FASFでは、この課題に対応すべく、ASBJと連携しつつ、第3期目となる「会計人材開発支援プログラム」の取組みを進めるとともに、本年4月には、国際会計人材ネットワークを構築し、このネットワークの登録リストを公表しました。その後、7月にはシンポジウムを開催するなど、このネットワークをさらに有効に活用することとしております。

FASF事務局は、市場関係者のご協力を得つつ、こうした活動に取り組んでまいりました。ま

た、広報やセミナーを通じて、FASF/ASBJの活動のご理解を深めていただくことにも力を入れてまいりました。ホームページと並んで本誌もそのための重要な媒体であり、今後とも、是非、ご愛読いただければと存じます。

FASFの重要な財務基盤となっております会員制度につきましては、おかげさまで、市場関係者のご協力を得て、上場企業の会員加入率も順調に増加しており、FASF/ASBJが円滑に活動できるための大きな支えとなっております。会員の皆様の引き続きのご支援をお願いする次第です。

私事にはなりますが、2001年にFASF/ASBJが設立された際に、3年間、財務諸表作成者出身のASBJ常勤委員として務めさせていただき、また、2010年から、再度、常勤委員として務めさせていただいており、その期間も通算しますと10年もの間、FASF/ASBJで任務を与えていただいたこととなります。

この間、FASF/ASBJを取り巻く環境には、様々な変化がありました。とりわけ、経済・社会のグローバル化が進展する中で、国内外で難しいかじ取りも迫られましたが、関係者のご努力により、日本基準の高品質化、IFRS適用拡大への対応など、着実に成果をあげられてきたものと思います。そうした中、昨年7月、FASF/ASBJの設立15周年を迎えることができましたことは、大変、感慨深いことでした。

あらためて、関係者の皆様にお礼を申し上げますとともに、引き続き、FASF/ASBJに対するさらなるご理解とご協力をお願い申し上げて、退任のご挨拶とさせていただきます。